

血液内科

診療科のご紹介

血液内科は、全身に分布する血液や免疫組織の疾患を取り扱う診療科で、赤血球（酸素を運搬する）、白血球（感染防御を担う）、血小板（出血を止める）という血液細胞に由来する疾患が診療対象です。専門医師が診療に従事しており、日本血液学会認定教育施設にも認定されています。

血液疾患は、赤血球が不足した（貧血）、白血球が多い（白血病など）、血小板が減少した（紫斑病）、リンパ節が腫れている（リンパ節腫）といった、各細胞成分の増減を主体にした疾病です。当院ではこれらの病状を専門医が的確に診断し、院内に無菌室を備え治療に当たっています。分子標的治療や自己末梢血幹細胞移植といった専門的な治療を実施しています。

その方に応じた治療法を選択し、また常に最新の医療を行うように努め、医師や看護師が協力して患者さんの健康回復を図っています。

診療科で対象とする症状

動くと動悸や息切れがする（貧血）や出血が止まりにくい（出血傾向）、頸や腋窩などにしこりを触れる（リンパ節腫大）などが血液疾患の徴候です。自覚症状が無く健康診断で発見される場合もあります。

診療科の対象疾患

造血器悪性腫瘍（急性・慢性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）、各種貧血（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血など）、血小板減少性紫斑病、など